



◀ 新年を祝う勇壮な演舞を披露する孔子の里獅子舞



▶ 一般公開された聖廟に初詣する参拝者

無病息災や家内安全を祈願して

多久聖廟お火たき・初詣

大晦日の12月31日、多久市物産館朋来庵横の芝生広場で多久聖廟年末年始お火たきが行われました。

青竹や木で組み上げられた「お山」に聖光寺の野中住職ほかで点火すると、またたく間に10メートルを超す炎が上がり、来場者はお神火にあたり、身を清め、来年の無病息災や家内安全を祈願しました。またお火たきとともに、多久東部太鼓による力強い演奏や、来場者全員で新年へのカウントダウン、招福の孔子の里獅子舞による力強い演舞で新年を祝いました。

また、大晦日から元旦にかけて多久聖廟は夜通し一般公開され、参拝者が列をなして初詣する姿が見られました。

科学を楽しく学んで夢を膨らませて

多久市！おもしろキッズサイエンス教室

郷土の偉人志田林三郎博士の生誕を記念して、工作や実験を通じて科学に興味を持ってもらおうと12月25日、中央公民館で市内小学生を対象に多久市！おもしろキッズサイエンス教室を開催しました。

参加した児童は5つの会場に分かれ、モーターの仕組み、食塩水や油の性質を使った実験、糸電話や風船で作る電話を通して音の伝わる仕組み、針金をいろいろな形に曲げて重りの回り方を試して遊ぶ針金の回転コースター作り、ペットボトルを使った空気砲づくりなど思い思いに科学の仕組みを学びました。

中央校4年の渡辺咲葵さんは「モーターを回すために調整しながらヤスリで針金を砥ぐところが大変でした。最後にモーターが動いてよかったです」と充実した表情でした。



▶ 教員の指導を受けながらペットボトル空気砲を作る児童



▲ 風船電話で音の伝わり方を実験する様子

国際ソロプチミスト佐賀中部歳末助け合い募金

12/20

女性の地位向上や人権擁護など奉仕活動に取り組む国際ソロプチミスト佐賀中部（松永公子会長）の会員から多久市社会福祉協議会へ歳末助け合い募金がありました。



国際ソロプチミスト佐賀中部では、チャリティバザーの益金や会員の会費から毎年寄付されています。

募金を受け取った社会福祉協議会の北島高美事務局長は、「共同募金会を通じて、生活困窮者、交通遺児のみなさんへ歳末見舞い金として配分させていただきます」とあいさつしました。

災害発生時の連絡手段をご存知ですか？

11/29

日本公衆電話会佐賀支部理事の大坪幸佑さんが市役所を訪れ、「災害時連絡方法の手引き」500冊を横尾市長に手渡しました。



災害発生時には、電話回線が混雑し、安否確認などの連絡が取れないことがあります。NTTグループが提供する専用ダイヤル「171」は、伝言サービスとなっており、この手引きは、その利用方法がわかりやすくまとめられたものです。

市では、いただいた冊子を防災イベントなどを通して、防災意識の啓発のひとつとして活用します。